

| 科目名 | 単位数(時間数) | 開講時期 | 担当講師 | 実務経験 |
|--------|----------|---------|------|---------|
| 在宅看護概論 | 1単位(15) | 1年次 11月 | 専任教員 | あり(看護師) |

科目目標:在宅看護の概念を踏まえ、在宅看護の対象と看護師の役割を理解する。

| 授業回数 | 授業計画 | 授業方法 | 講師 |
|--------|--|------|------|
| 1回 | 1 在宅看護とは何か (1)地域看護と在宅看護 (2)在宅看護が必要とされる背景 (3)在宅看護の役割 (4)在宅看護の提供方法 2 在宅看護の基本理念と倫理 (1)自己決定と自助への支援 (2)ノーマライゼーション (3)ヘルスプロモーション (4)権利擁護(アドボカシー)・虐待防止・成年後見制度 (5)情報管理 | 講義 | 専任教員 |
| 2回 | 3 在宅看護の特徴 (1)施設看護と在宅看護 (2)在宅療養が成立する条件 4 在宅看護の対象 (ICF分類) (1)健康段階からみた対象 (2)発達段階からみた対象 (3)家族と在宅看護 | | |
| 3回 | 5 在宅看護にかかわる社会資源 (1)在宅看護を支える医療・福祉制度 医療保険、介護保険 高齢者保健福祉施策 障害者総合支援法、難病、子ども (2)社会資源とは(住んでいる地域の社会資源調査) | | |
| 4回 | 6 療養の場の移行に伴う看護 (1)入退院に関する療養者・家族の意思決定支援 (2)退院支援・退院調整 (3)入退所に関する療養者・家族の意思決定支援 7 地域包括ケアシステムと看護 (1)地域連携パスの理解 (2)外来・地域連携部門との看看連携 (3)多職種との連携と協働 | | |
| 5回 | 8 ケアマネジメントとケースマネジメント (1)ケアマネジメントとケースマネジメントの概念 (2)ケアマネジメントとケースマネジメントの過程 (3)ケアマネジメントとケースマネジメントの実際 | | |
| 6回 | 9 訪問看護制度の理解 (1)訪問看護の変遷 (2)訪問看護の提供方法と種類 (3)訪問看護制度の課題 | | |
| 7回 | 10 訪問看護サービスの仕組みと提 (1)訪問看護ステーションの開設基準 (2)訪問看護サービス開始まで流れ (3)訪問看護サービスの展開 (4)訪問看護サービスの質保証 (5)訪問看護サービスの管理・経営 | | |
| 8回 | 修了認定試験 配点:筆記試験 100点、 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照) | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 社会福祉の手引き 東京都 | | |

| 科目名 | 単位数(時間数) | 開講時期 | 担当講師 | 実務経験 |
|------------------|----------|--------|------|---------|
| 在宅療養者の健康状態に応じた看護 | 1単位(30) | 2年次 5月 | 外部講師 | あり(看護師) |
| | | | 専任教員 | あり(看護師) |

科目目標:在宅で療養する対象の状態に応じた看護と社会資源活用の基本を理解する。

| 授業回数 | 授業計画 | 授業方法 | 講師 |
|-----------------|---|------------------------|--------------|
| 1回 2回 3回 | 1 安全で安心な在宅療養生活の保障 (1)24時間の連絡体制、相談・訪問(問題の予測と予防) (2)生活の中の安全管理 (3)感染管理、リスクマネジメント (4)災害時の在宅看護 | 講義 | 専任教員 |
| 4回 5回 6回 | 1 神経難病で療養する対象の在宅看護 (1)疾病の特徴と療養の経過 (2)急性増悪の早期発見と対応 (3)難病対策要綱、特定疾患 (4)家族への支援(レスパイト) | 講義 | 外部講師 |
| 7回 | 2 在宅で療養する人・家族の理解(療養者・家族の話) | 講義 | 外部講師 専任教員 |
| 8回 9回 10回 | 1 終末期を迎えた対象の看護(悪性腫瘍を中心に) (1)疾病の特徴と療養の経過 (2)緩和ケア(麻薬管理) (3)自己決定への支援 (4)24時間の支援体制(特別看護訪問指示書) (5)家族の支援・グリーフケア | 講義 | 外部講師 |
| 11回 12回 | 1 障がいをもちながら生活する対象の看護(小児・精神の事例含む) (1)障がいに応じた看護(身体・精神・知的) (2)住環境調整 (3)生活拡大への援助 (4)精神症状と生活への影響 (5)必要な支援(服薬管理、日常生活援助、社会資源) (6)家族の支援 (7)障害者総合支援法 自立支援給付・地域生活支援事業 | 講義 | 外部講師 |
| 13回 | 1 日常生活活動の低下及び疾病の再発予防が必要な対象の在宅看護(呼吸障害) (1)状態のアセスメントと環境整備 (2)療養者と家族のセルフマネジメントを維持・高める支援 (3)異常の早期発見と対応 | 講義 | 外部講師 |
| 14回 | 1 回復期にある療養者への在宅看護(脳血管疾患) (1)在宅リハビリテーション (2)機能障害と在宅での生活のアセスメント (3)合併症の予防と対応 (4)住環境のアセスメント (5)社会資源の活用と調整 | 講義 | 外部講師 |
| 15回 | 修了認定試験 配点:筆記試験100点、 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照) | 筆記試験(1h) 自己学習時間(1h) | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 よくわかる在宅看護 学研 | | |

| 科目名 | 単位数(時間数) | 開講時期 | 担当講師 | 実務経験 |
|--------|----------|--------|------|---------|
| 在宅看護技術 | 1単位(30) | 2年次 5月 | 外部講師 | あり(看護師) |
| | | | 専任教員 | あり(看護師) |

科目目標:訪問看護技術の基本技術と療養する対象のアセスメントをもとに在宅における生活支援技術を理解する。

| 授業回数 | 授業計画 | 授業方法 | 講師 |
|------------|---|------------------------|--------------|
| 1回 | 1 在宅における基本技術 (1) コミュニケーション技術 (2) 相談・指導技術 (3) 訪問時のマナー | 講義 | 専任教員 |
| 2回 | (4) 訪問時のマナーの実際 | 校内実習 | 専任教員 外部講師 |
| 3回 | 2 生活環境の調整 (1)安全で快適な居住環境の条件 (2)社会資源の活用と工夫 3 在宅におけるフィジカルアセ (1)フィジカルアセスメントの必要性 (2)症状徴候、身体機能別アセスメント 4 在宅における日常生活支援・医療処置および管理技術 (1) 活動・移動・休息 ①ADLとIADL ②移動補助具の種類と方法、安全確保 (2) 清潔・衣生活 ①清潔のアセスメント ②在宅での清潔方法の種類と方法 | 講義 | 専任教員 |
| 4回 | (3) 移動補助具とリフト体験 | 校内実習 | 専任教員 外部講師 |
| 5回 6回 | (4) 在宅における日常生活援助 | 校内実習 | 専任教員 外部講師 |
| 7回 | (5) 食事 ①食生活を整える視点 ②栄養評価 ③経管栄養法の管理(胃瘻・腸瘻) ④完全在宅中心静脈栄養・CVポートの管理 ⑤医師との連携、薬剤や医療材料の調達 (6) 呼吸・循環 ①在宅酸素療法、適応、機器の管理、指導 ②在宅人工呼吸療法とその管理 ③気管切開部の管理 ④気管内吸引 | 講義 | 専任教員 |
| 8回 9回 | (7) 経管栄養法・胃ろう管理(気管カニューレ管理) | 校内実習 | 専任教員 外部講師 |
| 10回 11回 | (8) 在宅人工呼吸療法とその管理の実際 | 校内実習 | 外部講師 専任教員 |
| 12回 | (9) 排泄 ①排便コントロール・ストーマケア ②排尿の管理(自己導尿・膀胱瘻) ③CAPDの管理 ④医師との連携、薬剤や医療材料の調達 | 講義 | 専任教員 |
| 13回 | (10) 摘便 | 校内実習 | 専任教員 |
| 14回 | (11) 褥瘡管理 ①褥瘡のアセスメントと処置 ②在宅における安全管理と支援 (12) 薬物療法 ①服薬状況の確認 ②医師および薬剤師との連携 ③通院治療中の在宅療養者に対するケア ④放射線治療・検査に関するケア | 講義 | 専任教員 |
| 15回 | 修了認定試験 配点:筆記試験 100点、 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照) | 筆記試験(1h) 自己学習時間(1h) | |
| 使用 テキスト | 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 よくわかる在宅看護 学研 | | |

| 科目名 | 単位数(時間数) | 開講時期 | 担当講師 | 実務経験 |
|--------|----------|---------|------|---------|
| 在宅看護過程 | 1単位(15) | 2年次 10月 | 専任教員 | あり(看護師) |

科目目標:事例展開を通して在宅看護の特徴を理解する。

| 授業回数 | 授業計画 | 授業方法 | 講師 |
|----------|---|------------------------|------|
| 1回 | 1 看護過程展開の視点 (1)療養者、家族一人ひとりの価値観や人生観の尊重 (2)療養者、家族が望む生活の実現 (3)療養者、家族の習慣の尊重 (4)自己決定とセルフケアへの援助 (5)支援体制の確立 | 講義 | 専任教員 |
| 2回 | 2 情報収集の視点 (1)療養者、家族の身体・精神面の健康、適応 (2)療養者と家族の在宅療養への思い (3)療養者と家族の関係 (4)住環境と経済状態 (5)活用している社会資源 | | |
| 3回 | 3 アセスメント (1)療養者のアセスメント (2)家族、介護者のアセスメント (3)住環境のアセスメント (4)社会資源のアセスメント | | |
| 4回 | 4 看護診断 (1)療養者、家族の看護診断 (2)療養者、家族との課題の共有化 5 目標の設定 | 演習 | |
| 5回 6回 | 6 看護計画 (1)訪問間隔、訪問時間の調整 (2)日常生活の支援 (3)療養者と家族の指導 (4)社会資源活用に向けた支援 (5)緊急時の対応 | 演習 | |
| 7回 | 7 評価 (1)療養者・家族の満足度の確認 | 講義 | |
| 8回 | 修了認定試験 配点:筆記試験 70 点、レポート30 点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照) | 筆記試験(1h) 自己学習時間(1h) | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 | | |